

コロナ禍における需要動向の検証について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和3年10月29日（金）
薬事・食品衛生審議会
血液事業部会献血推進調査会

はじめに

令和2年度第3回献血推進調査会（令和3年1月28日開催）において、「献血推進2025」の新たな目標値を定める参考値として「需要推計に基づく必要献血者シミュレーション」を報告した。

その際、新型コロナウイルス感染症の今後の動向を見極めながら、輸血用血液製剤の使用実態等、検証する必要があるとした。

今般、新型コロナウイルス感染症の感染者数の動向と輸血用血液製剤の供給実績推移について検証した結果を報告する。

【献血推進に係る新たな中期目標「献血推進2025」について】

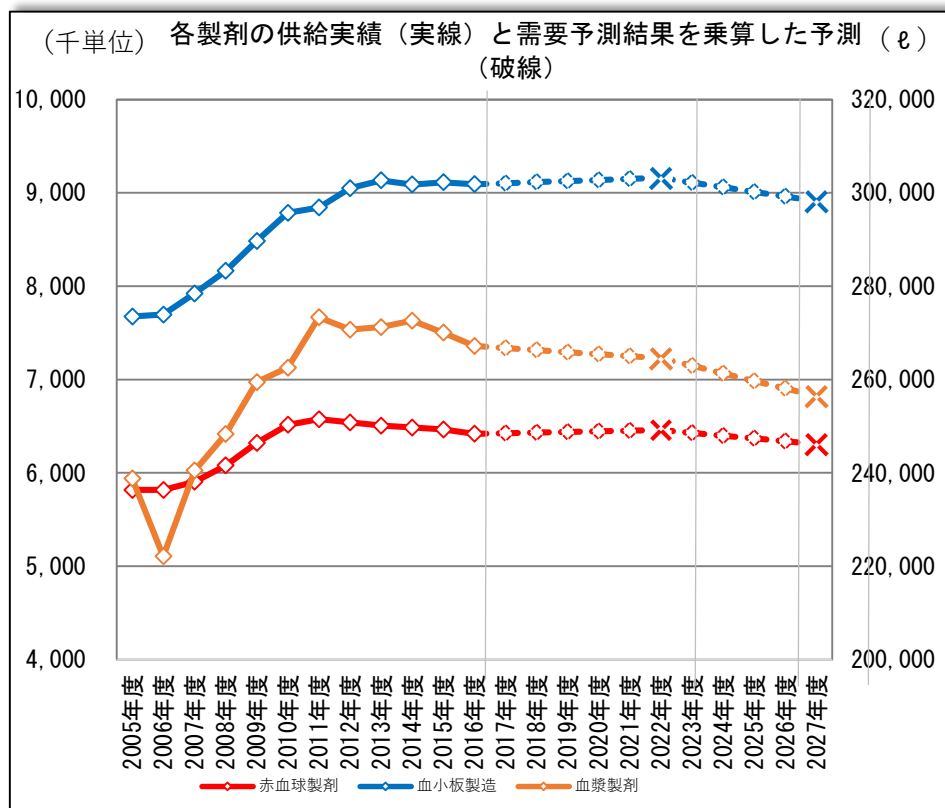
項目	目標	H32年度目標値	2025年度目標値
若年層の献血者数の増加	10代（注）の献血率を増加させる。	7.0%	6.6%
	20代の献血率を増加させる。	8.1%	6.8%
	30代の献血率を増加させる。	7.6%	6.6%



今後の対応

- ⇒新型コロナウイルス感染症の今後の動向を見極めながら、輸血用血液製剤の使用実態等、検証する必要がある。
- ⇒また、それに伴う在宅勤務及びオンライン授業により献血協力者層も変化しており、それらを分析し、新たな献血推進基盤の構築を図る必要がある。
- ⇒献血可能人口の推移など、都道府県によって異なる環境があることから、中長期的な需要推計結果を基に地域ごとの特性を踏まえた効率的な献血推進活動に努める必要がある。
- ⇒ブロック内採血役割分担の更なる検討を進め、安定かつ効率的な事業運営の構築を図る必要がある。

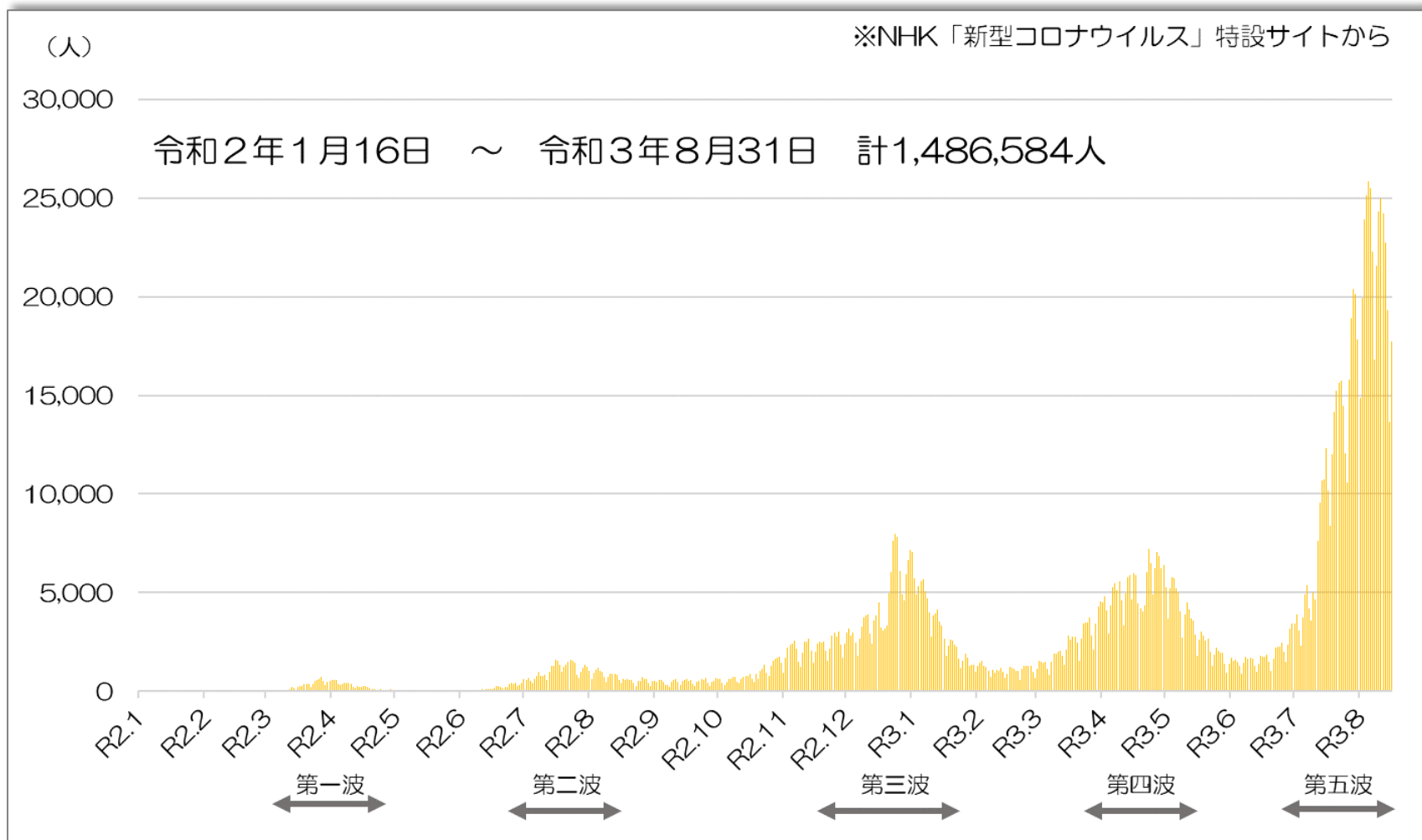
需要推計シミュレーション



高齢者人口の増加により医療需要は増加するものの、腹腔鏡下内視鏡手術など、患者の負担軽減（出血量を抑えた医療技術の進歩等）により輸血用血液製剤の需要量は、10年後には減少となる予測となった。

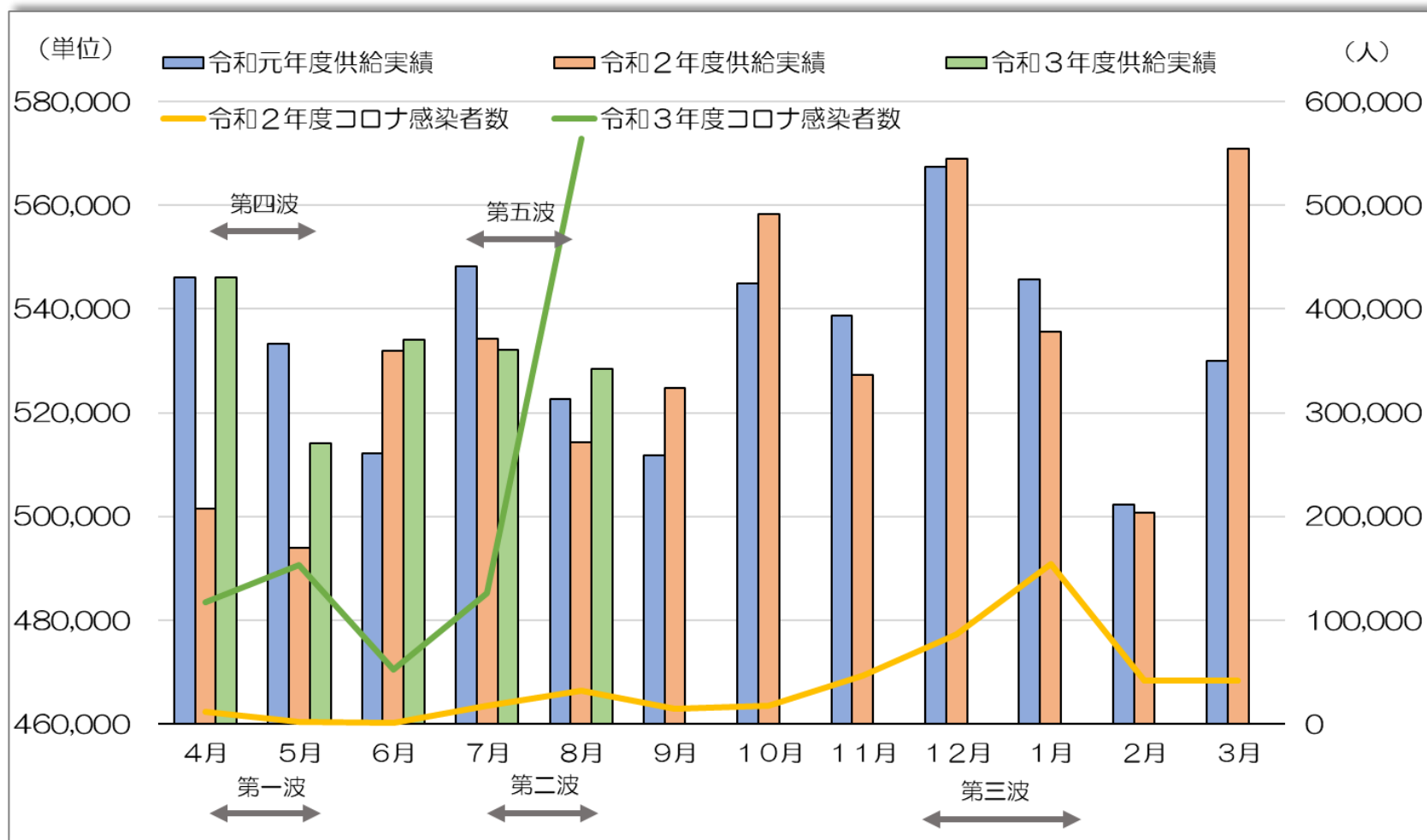
需要推計シミュレーションについては、令和元年度 第2回献血推進調査会（10月17日開催）報告した数値に基づき、2025年度の赤血球製剤約637万単位、血漿製剤約26万L、血小板製剤約901万単位となる。

新型コロナウイルス感染者数の動向（全国）



- 令和2年1月に新型コロナウイルスが日本国内で初めて発見。
- 令和2年4月には一回目の緊急事態宣言が発出。(令和3年9月時点で計四回)
- 第五波である令和3年9月現在、感染者数は過去最高水準。

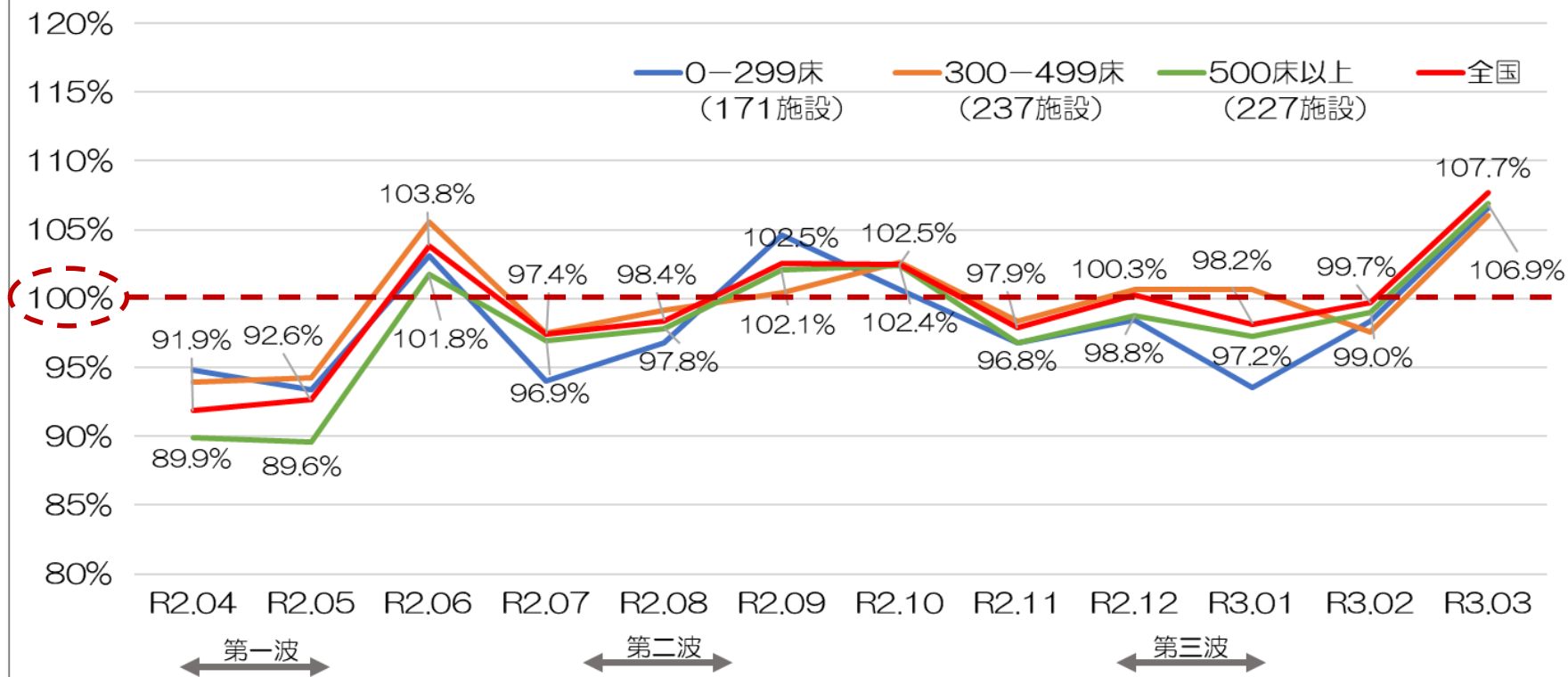
赤血球製剤の供給実績推移（全国）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2/R1	91.9%	92.6%	103.8%	97.4%	98.4%	102.5%	102.5%	97.9%	100.3%	98.2%	99.7%	107.7%	99.4%
R3/R1	100.0%	96.4%	104.3%	97.1%	101.1%	-	-	-	-	-	-	-	99.7%

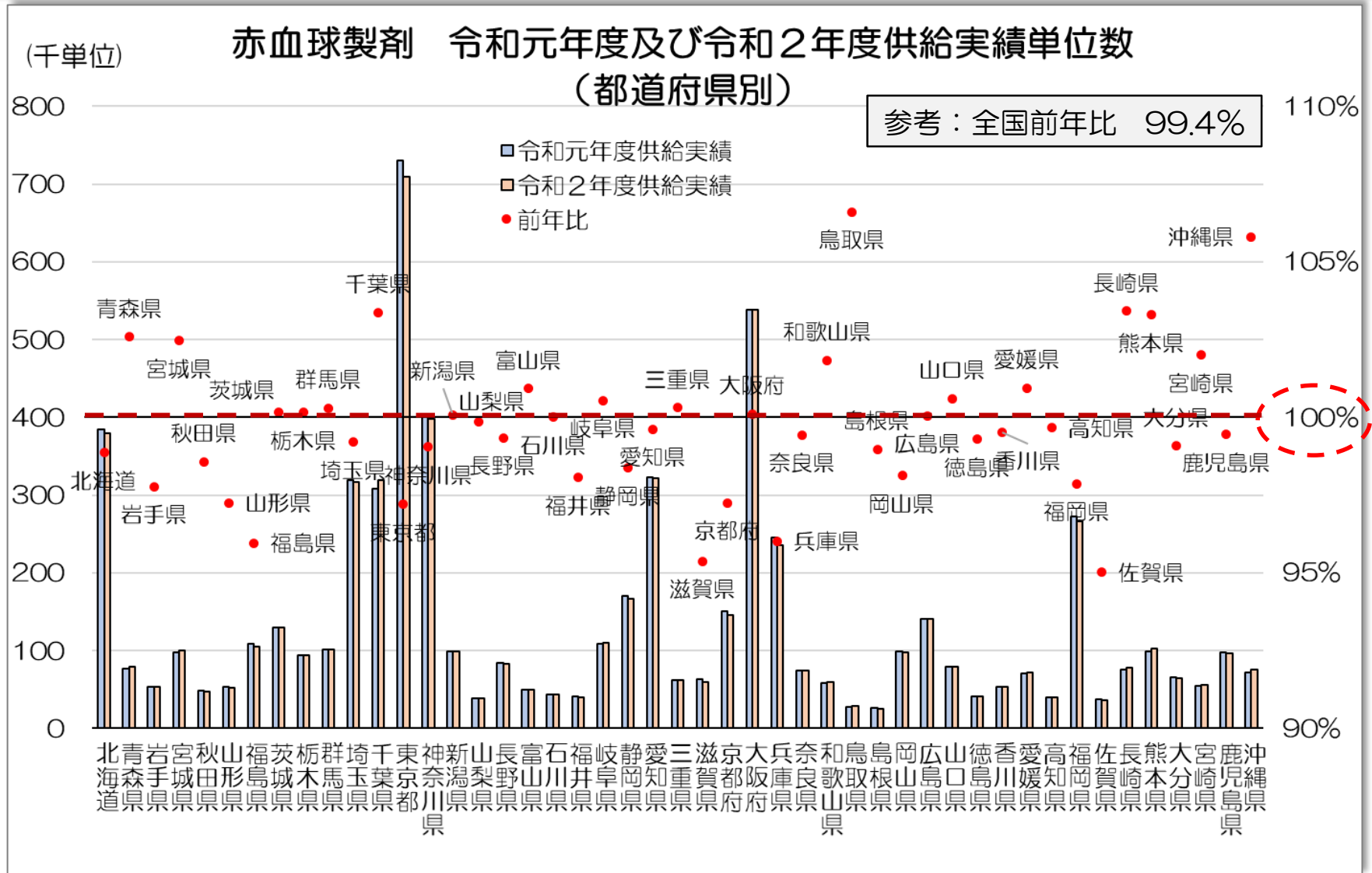
病床区分別・供給上位医療機関の供給状況

令和2年度赤血球製剤供給実績 前年同月比【全国・病床区分別】 n=635



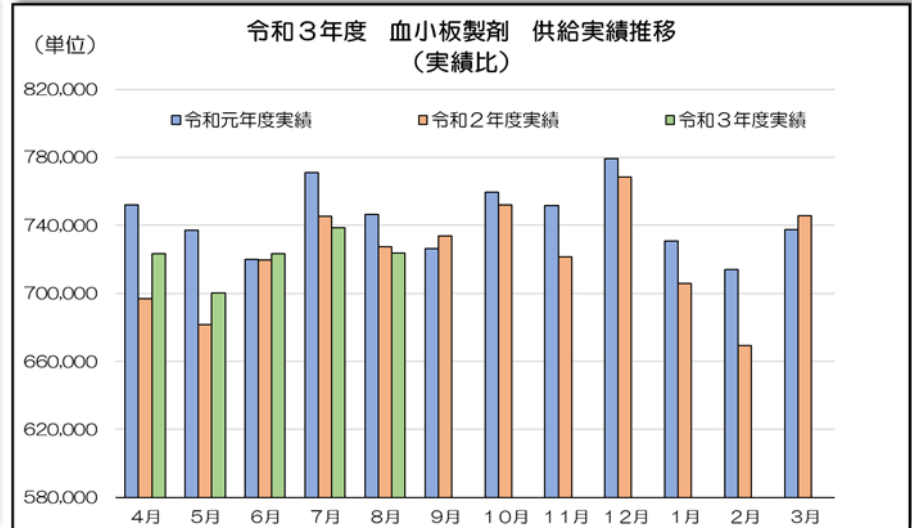
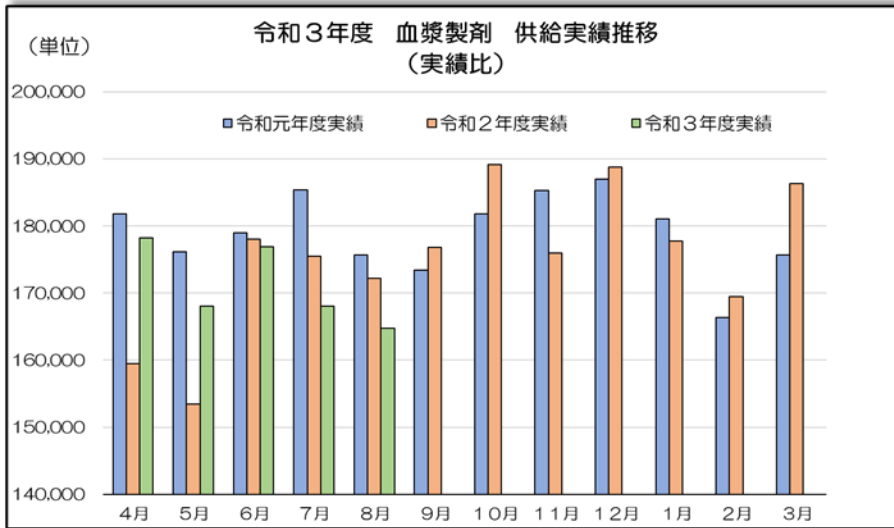
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0~299床	94.8%	93.4%	103.1%	94.0%	96.8%	104.6%	100.7%	96.7%	98.4%	93.5%	98.4%	106.6%	98.3%
300~499床	93.9%	94.3%	105.6%	97.5%	99.2%	100.5%	102.7%	98.4%	100.6%	100.6%	97.6%	106.1%	99.7%
500床~	89.9%	89.6%	101.8%	96.9%	97.8%	102.1%	102.4%	96.8%	98.8%	97.2%	99.0%	106.9%	98.2%
全国	91.9%	92.6%	103.8%	97.4%	98.4%	102.5%	102.5%	97.9%	100.3%	98.2%	99.7%	107.7%	99.4%

都道府県別赤血球製剤の供給状況



※令和2年度実績が令和元年度実績を下回っているセンター数…全26都道府県。

血漿・血小板製剤の供給実績推移（全国）



【血漿製剤】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2/R1	87.7%	87.1%	99.4%	94.7%	98.0%	102.0%	104.0%	95.0%	100.9%	98.2%	101.9%	106.1%	97.9%
R3/R1	98.1%	95.4%	98.8%	90.7%	93.8%								95.3%

【血小板製剤】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2/R1	92.7%	92.5%	99.9%	96.7%	97.5%	101.0%	99.0%	96.0%	98.6%	96.6%	93.7%	101.1%	97.1%
R3/R1	96.2%	95.0%	100.5%	95.8%	97.0%								96.9%

※ 赤血球製剤と同様の傾向がみられた

まとめ

- 令和2年4～5月は日本外科学会等からの提言により待機手術の延期で手術件数が減少し、輸血用血液製剤の供給量が減少した。
- 令和2年6月以降の供給量は前年と比べ大きな減少は無く、令和2年度実績は前年度比99.4%であった。
- 令和3年度も新型コロナウイルス感染者数が増加しているものの、8月時点の供給実績は令和元年度比99.7%で推移している。
- 令和2年度供給実績を病床区分別で見ると、一般病床500床以上の大規模医療機関の供給量が減少している。特に第一波での減少幅が大きい。



昨年4月5月の緊急事態宣言下においては、特に大規模医療機関で供給は大きく減少したが、その後は、感染拡大時においても供給実績に大きな変化は見られなかった。

今後も新型コロナウイルス感染拡大による供給への影響を注視していくこととする。